

YAMAHA

QY データファイラー

取扱説明書

目 次

QYデータファイラーのインストール方法	1
Windowsをお使いの方は	1
Macintoshをお使いの方は	2
QYデータファイラーとは？	3
QYデータファイラーの起動	4
QYデータ	8
コンピューターにQY70のデータを保存する	8
コンピューターに保存されているデータをQY70に送信する	10
SMFデータ	14
QY70のソングデータをSMFデータとして保存する	14
SMFデータをQY70に送信する	17
QYコントロール	19
エラーメッセージリスト	21
MIDI Managerについて(Macintoshをお使いのお客様へ)	23

このソフトウェアおよび取扱説明書の著作権は、ヤマハ株式会社にあります。

この取扱説明書は、お客様がWindows、Macintoshの基本的な操作について、ご理解いただいていることを前提に説明しています。Windows、Macintoshの操作に関することは、それぞれの取扱説明書をご参照ください。

この取扱説明書に掲載されている画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の画面と異なる場合があります。

このソフトウェアおよび取扱説明書の一部または全部を無断で複製、改編することはできません。

このソフトウェアおよびその取扱説明書を運用した結果および影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。

MS-DOS、Windowsは、米国マイクロソフト社の登録商標です。

Macintoshは、米国アップルコンピュータ社の登録商標です。

この取扱説明書に掲載されている会社名、製品名はそれぞれ各社の商標/登録商標です。

市販の音楽データは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。

QYデータファイラーのインストール方法

QYデータファイラーをお使いになるには、まず同梱のフロッピーディスク(「QY Data Filer」)から、以下の手順でデータファイラーをインストールしてください。

Windowsをお使いの方は

QYデータファイラーをWindowsにインストールするには、以下のコンピューター環境が必要です。

対応OS	Windows95、またはWindows3.1
CPU	486SX/33MHz以上
実装メモリー	8MB以上
ハードディスク	3MB以上
画面	640×480ドット、256色以上

1 「QY Data Filer for Windows」のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。

2 Windows 95の場合、[スタート]ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
(Windows 3.1の場合、「プログラムマネージャ」の「アイコン」メニューから「ファイル名を指定して実行」を選びます。)

3 フロッピーディスクを挿入したドライブ名とファイル名(setup.exe)をコンピューターキーボードを使って入力します。

IBM-PC/AT互換機をお使いの方はボックスに“ A:¥setup.exe ”とタイプ入力して、[OK]をクリックします。

NEC PC-9801/9821シリーズをお使いの方はボックスに“ B:¥setup.exe ”とタイプ入力して、[OK]をクリックします。

ここから先は、画面の指示にしたがってインストール作業を進めてください。




Windows 3.1、またはWindows 95をお使いの場合、上記手順でQYデータファイラーをインストールし、さらにMIDIドライバーをインストールする必要があります。MIDIドライバーのインストール方法については、ベーシックガイドの18ページを参照してください。

Macintoshをお使いの方は

QYデータファイラーをMacintoshにインストールするには、以下のコンピューター環境が必要です。

対応OS	漢字Talk 7.1以上
CPU	68030以上
実装メモリー	3MB以上
ハードディスク	3MB以上
画面	256色以上

- 1 「QY Data Filer for Mac」のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
- 2 フロッピーディスクのアイコンが表示されるので、ダブルクリックして開きます。
「QY Data Filer for Mac」アイコンと、「MIDI Manager」フォルダが表示されます。
- 3 「QY Data Filer for Mac」アイコンをドラッグして、ハードディスクの任意の場所にコピーします。
- 4 「MIDI Manager」フォルダをダブルクリックして開きます。その中身をすべてMacintoshの「システムフォルダ」アイコン()までドラッグします。
「システムフォルダ」にドラッグされた各ファイルは、自動的に「システムフォルダ」内の適切な場所にコピーされますので、確認のダイアログが表示されたら、すべて「OK」をクリックしてください。
- 5 Macintoshを再起動します。

これでQYデータファイラーのインストールは完了です。



「MIDI Manager」について、詳細は23ページを参照してください。

QYデータファイラーとは？

QYデータファイラーは、コンピューターを使ってQY70のデータを管理するソフトウェアです。QYデータファイラーをコンピューターにインストールした上で、QY70とコンピューターを接続して(ベーシックガイド15ページ参照)活用してください。

QYデータファイラーを使用することにより、QY70で作成したデータをコンピューターに保存したり、逆にコンピューター上で保存されているデータをQY70に送信したりすることができます。また、市販のSMFソングデータ集(XG/GMソングデータ集など)のデータをコンピューターからQY70に送信してQY70で再生できるようにしたり、コンピューターからQY70のデータをクリアしたりすることもできます。



QYデータファイラーは、QY70専用のアプリケーションソフトです。他の機器に対してはご使用になれません。

Windows 3.1、またはWindows 95をお使いの場合、あらかじめMIDIドライバーをインストールする必要があります。

MIDIドライバーのインストール方法については、ベーシックガイドの18ページを参照してください。

1 QYデータの送受信

QY70

コンピューター

- ・ QY70のすべてのデータをバルクファイルとしてコンピューターに保存

コンピューター

QY70

- ・ コンピューターに保存されているバルクファイルをQY70に送信
- ・ コンピューターに保存されているバルクファイルの中からソングデータ1つをQY70に送信
- ・ コンピューターに保存されているバルクファイルの中からユーザースタイルデータ1つをQY70に送信

2 SMFデータの送受信

QY70

コンピューター

- ・ QY70のソングデータをSMFデータに変換してコンピューターに保存

コンピューター

QY70

- ・ コンピューターに保存されているSMFデータをQY70に送信

3 QY70のデータのクリア

コンピューター

QY70

- ・ QY70のソングネームをコンピューターにリスト表示し、1つまたはすべてのソングをクリア
- ・ QY70のユーザースタイルネームをコンピューターにリスト表示し、1つまたはすべてのユーザースタイルをクリア

QYデータファイラーの起動

1 QYデータファイラーを起動します。

QYデータファイラーをインストールし(1ページ参照)、QY70とコンピューターを接続してから(ベーシックガイド15ページ参照)、以下の手順でQYデータファイラーを起動します。

Windows 95の場合

[スタート] ボタンをクリックし、「プログラム」メニューの「QY Data Filer」内の「QY Data Filer for Windows」をクリックします。

Windows 3.1の場合

「QY Data Filer」グループ内の「QY Data Filer for Windows」アイコンをダブルクリックします。

Macintoshの場合

ハードディスクの任意の場所にコピーした「QY Data Filer for Mac」アイコンをダブルクリックします。



MacintoshでQYデータファイラーをご使用になる場合は、アップルメニューのセレクトでApple Talkを「不使用」の状態にしてお使いください。



ご使用になっているコンピューターでMIDIドライバーが使用できない状態になっている場合、下記のようなメッセージが表示されます。

「指定されたMIDIデバイスはすでに使われています。他のアプリケーションを終了してください。」

[OK] をクリックし、MIDIドライバーを使用している他のMIDIアプリケーション(シーケンスソフトなど)を終了させてから、もう一度QYデータファイラーを起動してください。

「MIDIデバイスがありません。MIDIデバイスの設定を確認してください。」

MIDIドライバーが正しくインストールされていません。ベーシックガイドの18ページの手順にしたがって、MIDIドライバーをインストールしてください。



ご使用になっているコンピューターにQY70が正しく接続されていない場合は「通信に失敗しました。QY70が正しく接続されていること(ホストセレクトスイッチ設定など)を確認してください。」というダイアログが表示されます。QY70を接続して、HOST SELECTスイッチの位置を確認してから、もう一度起動してください。

2 トップ画面を確認しましょう。

QYデータファイラーを起動すると、次のような画面が表示されます。これを「トップ画面」と呼びます。

QYデータ【Send】

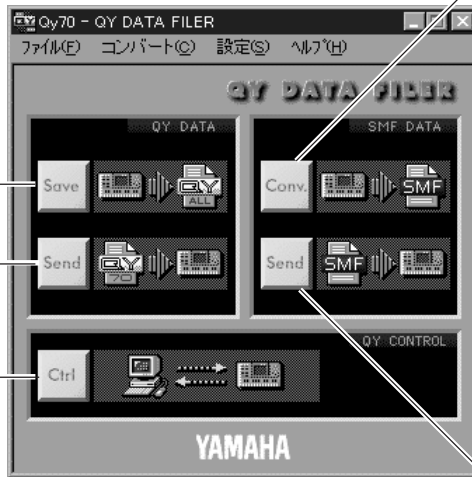
コンピューターに保存されているQY70の
バルクファイル、またはその中に含まれる
個々のソングやスタイルをQY70に送信
(10ページ参照)

SMFデータ【Conv.】

QY70のソングデータ1つをSMF
データに変換してコンピューターに
保存(14ページ参照)

QYデータ【Save】

QY70のすべてのデータをバルクファイルとし
てコンピューターに保存(8ページ参照)



QYコントロール【Ctrl】

QY70のソング/ユーザースタイルネー
ムをコンピューターにリスト表示し、
1つまたはすべてのソング/ユーザー
スタイルをクリア(19ページ参照)

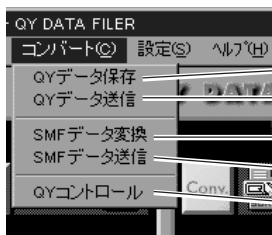
SMFデータ【Send】

コンピューターに保存されているSMF
データ1つをQY70に送信(17ページ
参照)

データファイラーのメニュー表示



QYデータファイラーを終了します。



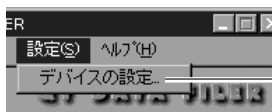
トップ画面のQYデータ[Save]と同様

トップ画面のQYデータ[Send]と同様

トップ画面のSMFデータ[Conv.]と同様

トップ画面のSMFデータ[Send]と同様

トップ画面のQYコントロール[Ctrl]と同様



QY70との間でデータ(バルクデータ)をやりとりするために必要なMIDIドライバーの設定をします。



ヘルプファイルの「目次」を開きます。

「ヘルプの使い方」を開きます。

QYデータファイラーのバージョン情報などを表示します。



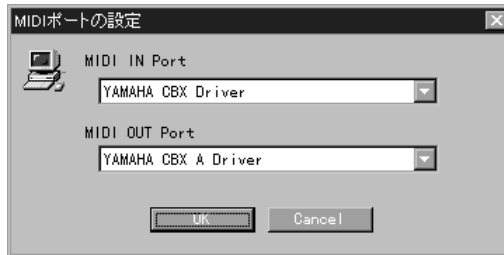
「設定」メニュー、および「ヘルプ」メニューは、Windows版でのみ使用します。

デバイスの設定について(Windowsのみ)

QYデータファイラーが、QY70との間でMIDIデータ(バルクデータ)を送受信するために必要なMIDIドライバーの設定をします。

1 「設定」メニューから「デバイスの設定」を選びます。

「MIDIポートの設定」ダイアログボックスが表示されます。



2 使用するMIDIドライバーを設定します。

「MIDI IN Port」、「MIDI OUT Port」の各▼ボタンをクリックすると、ドロップダウンリストが表示され、MIDIドライバーを選択できます。

QY70のTO HOST端子とコンピューターのシリアルポートを直接接続している場合

Windows 95をお使いの方は、「MIDI IN Port」で「Yamaha CBX Driver」、「MIDI OUT Port」で「Yamaha CBX A Driver」を選択してください。

Windows 3.1をお使いの方は、「MIDI IN Port」、「MIDI OUT Port」ともに、「Yamaha CBX-T3 Driver」を選択してください。

QY70のMIDI端子とコンピューターを、MIDIインターフェース経由で接続している場合

「MIDI IN Port」、「MIDI OUT Port」ともに、お使いのMIDIインターフェースに合ったMIDIドライバーを選択してください。詳細は、お使いのMIDIインターフェースの取扱説明書をご覧ください。

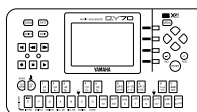
3 [OK] をクリックします。



デバイスの設定を行うには、あらかじめMIDIドライバーがインストールされている必要があります。

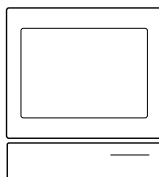
コンピューターにQY70のデータを保存する

QY70で作成したすべてのソングデータ、ユーザースタイルデータをバルクデータとして受信し、コンピューターに保存します(コンピューターにQYバルクファイルが作成されます)。



QY70

QYバルクデータ受信



コンピューター



MEMO

QY70からバルクダンプの操作を行う必要はありません。

1 トップ画面でQYデータ「Save」のアイコンをクリックします。



「ファイル名を付けて保存」のダイアログボックスが表示されます。

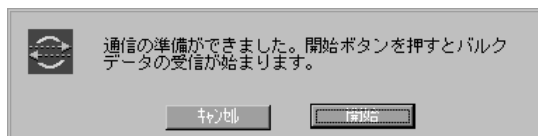


Macintosh版をお使いの場合、一般的なMacintoshの新規保存ダイアログボックスが表示されます。

2 保存するバルクファイルのファイル名を入力し、保存先を指定します。

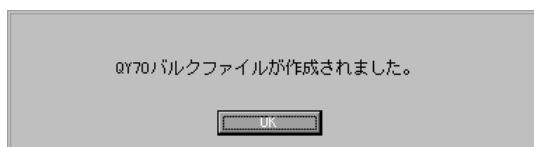
3 [保存] をクリックします。

「通信の準備ができました。...」というメッセージが表示されます。



4 [開始] をクリックすると、QY70からデータが送信されバルクデータの受信が始まります。

受信が終了すると「QY70バルクファイルが作成されました」というメッセージが表示されます。



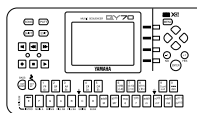
5 [OK] をクリックすると、トップ画面に戻ります。



トップ画面に戻らない状態でQY70を操作しようとする、QY70のディスプレイに「Now Bulk Mode」と表示され、操作できません。

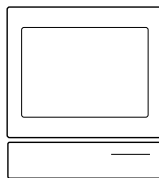
コンピューターに保存されているデータをQY70に送信する

コンピューターに保存されているバルクデータをQY70に送信します。(QY70のデータは書き替えられます。)



QY70

QYバルクデータ送信



コンピューター



MEMO

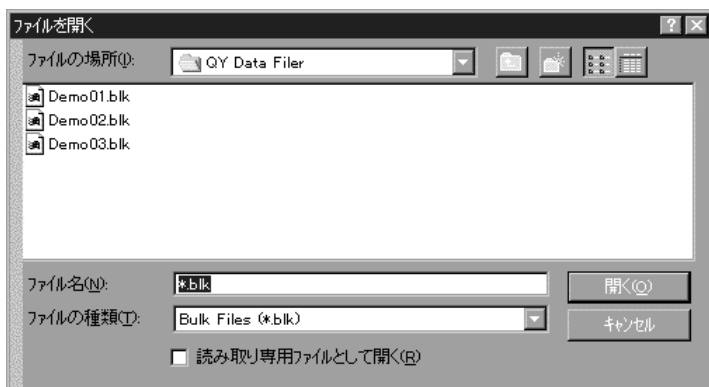
コンピューターからバルク送信する時は、下記の点に注意してください。

- ・ QY70の録音/再生は停止してください。
- ・ データをQY70に送信する場合、QY70をソングプレイ画面、またはパターンプレイ画面に切り替えてから、送信してください。

1 トップ画面でQYデータ [Send]のアイコンをクリックします。



「ファイルを開く」のダイアログボックスが表示されます。



Macintosh版をお使いの場合、一般的なMacintoshのファイルを開くダイアログボックスが表示されます。

2 送信するバルクファイルを選択します。

3 [開く] をクリックします。

送信タイプを選択する画面が表示されます。



ALL 手順2で選択したバルクファイルのすべてのデータを送信します。

SONG単位 手順2で選択したバルクファイルに入っているソングデータを1曲ずつ送信します。

PATTERN単位..... 手順2で選択したバルクファイルに入っているユーザースタイルデータを1スタイルずつ送信します。

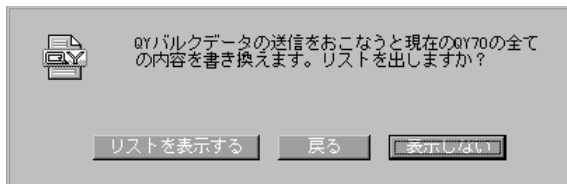
送信タイプを選択し [OK] をクリックします。



「ALL」を選択すると、QY70に入っている全ソング、全ユーザースタイル、システムセットアップデータは、コンピューターからのバルク送信後、上書きされます(消去されません)。

4-1【手順3.でALLを選択した場合】

手順3.で「ALL」を選択した場合、下のダイアログボックスが表示されます。



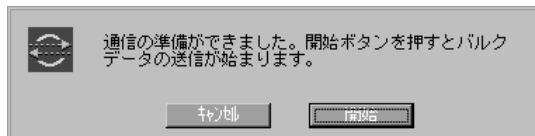
[リストを表示する] をクリックすると、送信ファイル(ソング)の内容がリスト表示されます。リスト内容を確認しましょう。



送信するユーザスタイルの内容を確認するには「USER STYLE」をクリックします。送信ファイルの内容が確認できたら、「戻る」をクリックします。

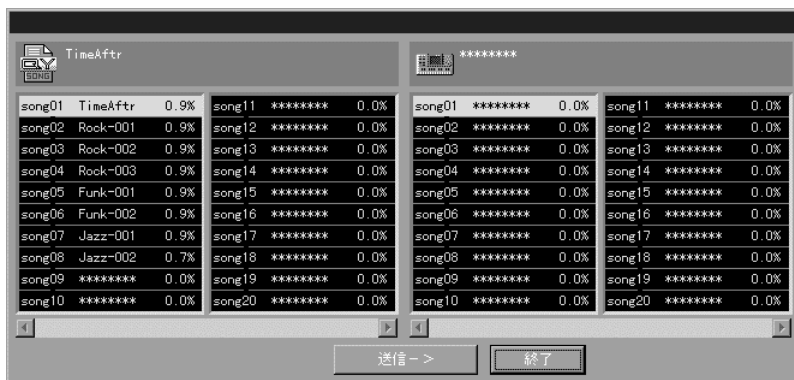
11ページの下の画面で「戻る」をクリックすると、トップ画面に戻ります。

11ページの下で「表示しない」をクリックすると、「通信の準備ができました...」というメッセージが表示されます。手順5にお進みください。



4-2【手順3.で「SONG単位」、または「PATTERN単位」を選択した場合】

手順3.で「SONG単位」または「PATTERN単位」を選択した場合、下のダイアログボックスが表示されます。



左側のボックスで送信するソング/ユーザースタイルのファイルを、右側のボックスで送信先(QY70本体のソング/ユーザースタイルナンバー)をクリックして選択します。



送信先にソング、またはユーザースタイルがある場合、そのソング、またはユーザースタイルは、コンピューターからのバルク送信後、上書きされず(消去されず)。

[送信]をクリックすると、「通信の準備ができました...」というメッセージが表示されます。手順5にお進みください。

5 「通信の準備ができました。...」というメッセージで [開始] をクリックすると、バルクデータの送信が始まります。

送信が終了すると「QY70バルクデータが送信されました」というメッセージが表示されます。



6 [OK] をクリックすると、トップ画面に戻ります。

手順3で「SONG単位」または「PATTERN単位」を選択した場合は、[OK] をクリックすると、再び手順4-2のダイアログボックスが表示されます。必要に応じて他のソング/ユーザースタイルをQY70に送信できます。[終了] をクリックすると、トップ画面に戻ります。

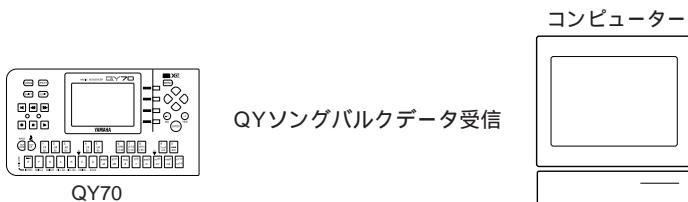


トップ画面に戻らない状態でQY70を操作しようとする、QY70のディスプレイに「Now Bulk Mode」と表示され、操作できません。

SMFデータ

QY70のソングデータをSMFデータとして保存する

QY70で作成したソングデータをコンピューターで受信し、SMFデータに変換して保存します。



受信後SMFデータに変換して保存



パターントラック(Pt)およびコードトラック(Cd)にデータが入ったソングをSMFデータとして保存する場合は、あらかじめソングジョブの「Expand Backing(エキスパンドバックイング)」を実行しておいてください。

SMFとは？

SMFは「スタンダードMIDIファイル」の略で、異なるシーケンサーの間で共通のソングデータを扱うことを可能にするために作られたソングデータの統一規格です。現在多くのソフトウェア/ハードウェアメーカーからSMF対応の曲データを作成、または再生できるシーケンサーが提供されています。

QYデータファイラーのSMFデータ変換 [Conv.]を行うことによって、QY70で作成したデータを一般的なSMF対応シーケンスソフトで再生したり、エディットしたりすることができます。

1 トップ画面でSMFデータ[Conv.]のアイコンをクリックします。



「SONGを指定」ダイアログボックスが表示されます。

2 SMFデータに変換したいソングをクリックして選択します。



3 [変換] をクリックします。

SMFファイルに、XG音色のデータヘッダーを付けるかどうかを選択するダイアログが表示されます。



「SMFに付けて保存」

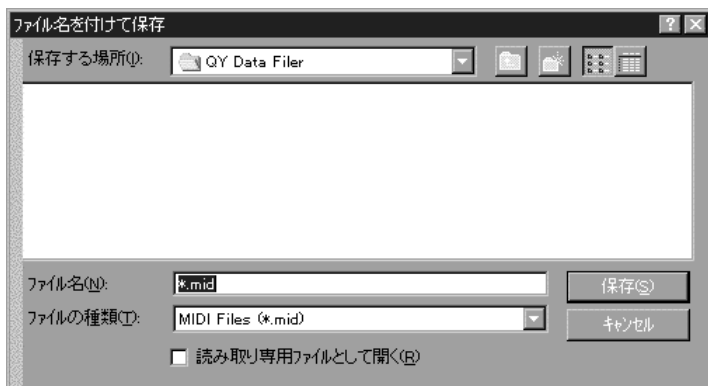
SMFデータにXG音色データ情報のヘッダーを付けます。作成したSMFデータにXGヘッダーを付けて保存すると、SMFデータの先頭に(曲が始まる前に)音源をセットアップするMIDIメッセージが入力されます。このため、SMFデータを他のシステム(シーケンサー + XG音源)で演奏させた場合でも、録音したときの音色設定を忠実に再現することができます。

「SMFに付けずに保存」

XG音色データ情報のヘッダーを付けません。作成したSMFデータをXG音源以外で再生する場合は、ヘッダーを付ける必要はありません。

ヘッダーをSMFに付けるかどうかを選択し、[OK] をクリックします。

「ファイル名を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。

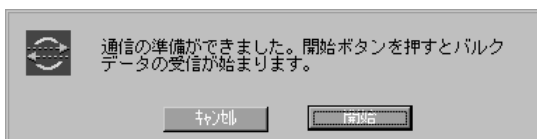


Macintosh版をお使いの場合、一般的なMacintoshの新規保存ダイアログボックスが表示されます。

4 SMFデータのファイル名を入力し、保存先を指定します。

5 [保存] をクリックします。

「通信の準備ができました。...」というメッセージが表示されます。



6 [開始] をクリックします。

ソングデータの受信が始まります。受信が終了すると、自動的にソングデータをSMFデータに変換します。

変換が終了すると「スタンダードMIDIファイルが作成されました」というメッセージが表示されます。



7 [OK] をクリックすると、トップ画面に戻ります。

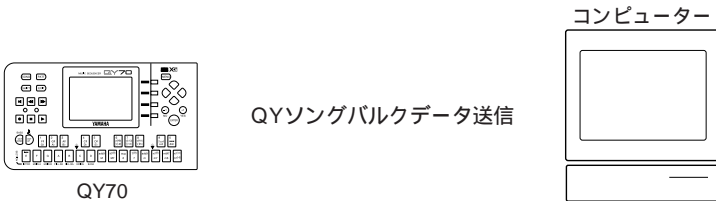


MEMO

トップ画面に戻らない状態でQY70を操作しようとする、QY70のディスプレイに「Now Bulk Mode」と表示され、操作できません。

SMFデータをQY70に送信する

コンピューターに保存されているSMFデータをQY70用に変換して、QY70に送信します。



送信前にQYソングパルクデータに変換



コンピューターからソングデータを送信する時は、下記の点に注意してください。

- ・ QY70の録音/再生は停止してください。
- ・ SONGデータをQY70に送信する場合、QY70をソングパターンプレイ画面に切り替えてから、送信してください。

1 トップ画面でSMFデータ[Send]のアイコンをクリックします。



「ファイルを開く」ダイアログボックスが表示されます。



Macintosh版をお使いの場合、一般的なMacintoshのファイルを開くダイアログボックスが表示されます。

2 送信したいSMFデータをクリックして選択します。

3 [開く] をクリックします。

「SONGを指定」ダイアログボックスが表示されます。

4 送信先のソングナンバーをクリックして選択し、[送信] をクリックします。



5 「通信の準備ができました。...」というメッセージが表示されるので、[開始] をクリックします。

SMFデータをQY70用のデータに変換し、送信が始まります。



送信先にソングがある場合、そのソングはコンピューターからの送信後、上書きされます(消去されます)。

送信が終了すると「スタンダードMIDIファイルが送信されました」というメッセージが表示されます。

6 [OK] をクリックすると、「SONGを指定」ダイアログボックスに戻ります。

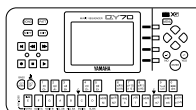
別のSMFデータをQY70に送信する場合は [ファイル選択] をクリックします。QYコントロール (19ページ参照)に移るときには [QYコントロール] をクリックします。 [終了] をクリックすると、トップ画面に戻ります。



トップ画面に戻らない状態でQY70を操作しようとするとき、QY70のディスプレイに「Now Bulk Mode」と表示され、操作できません。

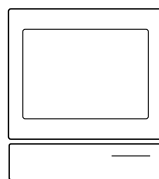
QYコントロール

QY70で作成したソングやスタイルを、コンピューターにリスト表示させ、その中の1つ、またはすべてのソングやスタイルをクリアすることができます。



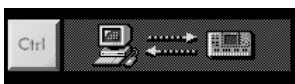
QY70

リストデータ
ソングクリアコマンド送信
スタイルクリアコマンド送信

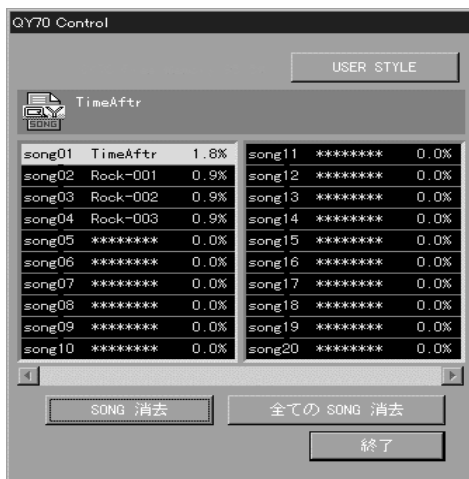


コンピューター

1 トップ画面でQYコントロール[Ctrl]のアイコンをクリックします。



「QYコントロール」ダイアログボックスが開いて、QY70のソングリスト(01～20)が表示されます。



2 ソング、またはスタイルをクリアします。

ソングをクリアする場合

ソングリストからソングをクリックして選択し、[SONG消去]をクリックすると、そのソングが削除されます。

[すべてのSONG消去]をクリックすると、すべてのソング(01～20)が削除されます。

ユーザースタイルをクリアする場合

[USER STYLE] をクリックするとQY70のユーザースタイルのリスト (U01 ~ U64)が表示されます。



スタイルをクリックして選択し、[USER STYLE消去] をクリックすると、そのスタイルが削除されます。

[すべてのUSER STYLE消去] をクリックすると、すべてのユーザースタイル (U01 ~ U64)が削除されます。

3 [終了] をクリックすると、トップ画面に戻ります。



トップ画面に戻らない状態でQY70を操作しようとする、QY70のディスプレイに「 Now Bulk Mode 」と表示され、操作できません。

エラーメッセージリスト

「指定されたMIDIデバイスはすでに使われています。他のアプリケーションを終了してください。」

他のアプリケーションでMIDIドライバーが使われている状態で、QYデータファイラーを起動しようとする则表示されます。

[OK]をクリックし、MIDIドライバーを使用している他のMIDIアプリケーション(シーケンスソフトなど)を終了させてから、もう一度QYデータファイラーを起動してください。

「MIDIデバイスがありません。MIDIデバイスの設定を確認してください。」

MIDIドライバーが正しくインストール/設定されていません。

別冊「ベーシックガイド」の18ページの手順に従って、MIDIドライバーをインストールし、COMポートなどの設定を正しく行ってください。

「通信に失敗しました。QY70が正しく接続されていること(ホストセレクトスイッチ設定など)を確認してください。」

以下のことを確認して、操作をやり直してください。

- ・ QY70とコンピューターが正しく接続されていますか？
「ベーシックガイド」の15ページに従って、正しく接続してください。
- ・ QY70のACアダプターが抜けていませんか？
「ベーシックガイド」の11ページに従って、接続してください。
- ・ QY70の電源スイッチがOFFになっていませんか？
電源をONにしてください。
- ・ QY70の電池が消耗していませんか？
電池を交換してください。
- ・ QY70のHOST SELECTスイッチが正しく設定されていますか？
「ベーシックガイド」の16ページに従って、正しく設定してください。
- ・ デバイスの設定は正しいですか？
「デバイスの設定について」(7ページ)に従って、正しく設定してください。

「通信が中断されました。QY70が正しく接続されていることを確認してください。」

以下のことを確認して、QY70の電源を入れ直してください。

- ・ QY70のACアダプターが抜けていませんか？
「ベーシックガイド」の11ページに従って、接続してください。
- ・ QY70の電源スイッチがOFFになっていませんか？
電源をONにしてください。
- ・ QY70の電池が消耗していませんか？
電池を交換してください。
- ・ QY70とコンピューターが正しく接続されていますか？
「ベーシックガイド」の15ページに従って、正しく接続してください。
- ・ QY70のHOST SELECTスイッチが正しく設定されていますか？
「ベーシックガイド」の16ページに従って、正しく設定してください。

「QY70が通信できないモードになっています。[EXIT]ボタンなどを押して、通信できるモードにしてください。」

以下のことを確認して、操作をやり直してください。

- ・ QY70がソングモード/パターンモードのプレイ画面になっていますか？
ソングモード/パターンモードのプレイ画面に戻してください。
ソングモードのプレイ画面では、デモソング(ソングナンバー21～23)以外を選択してください。
- ・ QY70が再生中、録音中、録音スタンバイ中ではありませんか？
QY70の[]ボタンを押して、再生、録音を停止してください。

「QYデータファイラーが異常終了しています。システムを再起動してから立ち上げ直してください。」

何らかの原因でQYデータファイラーが異常終了しました。コンピューターを再起動してから、QYデータファイラーを起動してください。

「バルクファイルが作成できませんでした。(ディスクがいっぱいです。)」または、
「SMFファイルが作成できませんでした。(ディスクがいっぱいです。)」

空き容量のないディスクに、QYバルクファイルやSMFファイルを保存しようとした。不要なファイルを削除するなどして空き容量を確保し、操作し直してください。

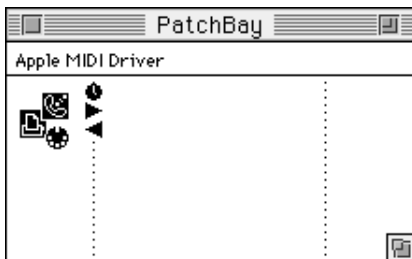
MIDI Managerは、MacintoshのシステムレベルでMIDIを扱えるようにするためのシステム拡張用のファイルで、同時に複数のMIDIソフトを使って、リアルタイムデータのやりとりやシリアルポートの共有などを行うことができます。

これらの設定はPatchBayを使って、MIDIソフトとApple MIDI Driverを接続することにより、MIDI Managerへの指示を行います。

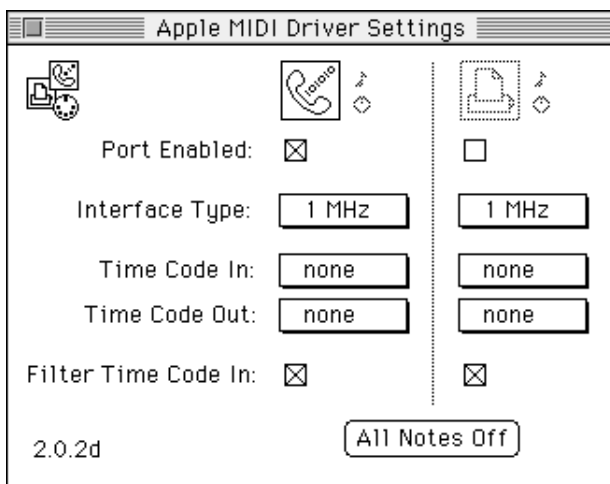
通常、QYデータファイラーを起動すると、自動的にQYデータファイラーとApple MIDI Driverは接続されますので、QYデータファイラーを単体で使用する場合、あまり意識する必要はありませんが、接続ポートを変更したいときは下記をご参照ください。

接続ポートの設定

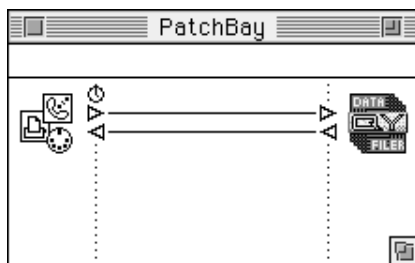
- 1 アップルメニューをプルダウンしてPatchBayを開き、MIDI Managerに対してどのインターフェースを接続するかを指示します。



- 2 Apple MIDI Driverのアイコンをダブルクリックします。
使用するポートや発信周波数 (ほとんどの場合は1 MHz) を設定します。



- 3 QYデータファイラーを起動した後、PatchBayを開くと、QYデータファイラーとApple MIDI Driverが接続されていることを確認することができます。また、他のシーケンスソフトを起動して、モデム/プリンターポートをQYデータファイラーと共有させるなどの設定を行うことが可能です。



- * QYデータファイラーをご使用になる場合は、アップルメニューのセクタを使ってApple Talkを不利用の状態にお使いください。
- * PatchBayはオンラインヘルプを持っていますので、アップルメニューから「About PatchBay」を選ぶことにより、詳しい情報を得ることができます。
- * Macintosh IIxまたはQuadraシリーズ(一部の機種)の場合は、シリアルポートの機構が他の機種と違うため、「Serial Switch」をコントロールパネルフォルダに入れる必要があります。2ページの手順でインストールすることによって、「Serial Switch」をコントロールパネルに入れます。
- * モデムを内蔵したPerformaシリーズをお使いの場合は、上記手順2でプリンターポートを選択してください。これらの機種では、設定画面上モデムポートが選択できても、実際にはモデムポート経由でQYデータファイラーを使うことができません。



Quadraシリーズの中には「Cache Switch」が必要な機種もあります。Macintosh Quadraに添付されているシステムディスク「Tidbits (システム追加分)」の中に、「Cache Switch」が入っていれば、それもシステムフォルダにコピーしてください。コピーが終わったら、アップルメニューからコントロールパネルを開き、「IIx Serial Switch」のシリアルポート設定を「Compatible」にしてください。また、Quadraシリーズをお使いの場合は、続けて「Cache Switch」の設定を「More Compatible」にしてください。Quadraシリーズをお使いの場合で「このMacintoshでは使用できません。」と表示される場合は、これらの設定は必要ありません。

商品に関するお問い合わせ窓口

CBXインフォメーションセンター

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

Tel 053-460-1667

営業窓口

電子楽器営業部 デジタルCBX営業課

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

Tel 053-460-2432

ホームページ <http://www.yamaha.co.jp/>

ニフティサーブ 「GO FMIDIVA」コマンドでFMIDIVAに入ると、ヤマハデジタル楽器およびDTM製品のフォーラムがございます。

電子会議

#16 ヤマハSynth & CBX情報ボード

#17 ヤマハSynth & CBXユーザーズカフェ

#18 ヤマハSynth & CBX相談室

データライブラリー

#8 ヤマハ/デジタルCBX

ソフトウェアのご使用条件

この度は、ヤマハ株式会社(以下弊社といいます)の本ソフトウェア製品を、お求めいただきまして誠にありがとうございます。

弊社では本製品のお客様によるご使用およびお客様へのアフターサービスについて、〈ソフトウェア使用許諾契約〉を設けさせていただいており、お客様が下記条項にご同意いただいた場合にのみご使用いただけます。

ディスクを袋より取り出された場合は下記条項にご同意いただけたものとさせていただきますので、下記条項を充分お読みの上取り出してください。

ご同意いただけない場合は、ディスクを袋に入れたまま速やかにご返却ください。

ソフトウェア使用許諾契約

1. 著作権および使用許諾

弊社はお客様に対し、このディスクに入っているプログラム及びデータファイル(以下「許諾プログラム」といいます)を、ご自身が一時に一台のコンピュータにおいてのみ使用する権利を許諾します。これらの許諾プログラムが記録されているディスクの所有権は、お客様にありますが、許諾プログラム自体の権利及びその著作権は、弊社が所有します。

2. 使用制限

許諾プログラムは著作権を持つ情報を含んでいますので、その保護のため、許諾プログラムを逆コンパイル、逆アセンブル、リバース・エンジニアリング、またはその他の方法により、人間が感得できる形にすることは許されません。許諾プログラムの全体または一部を複製、修正、改変、賃貸、リース、転売、頒布または許諾プログラムの内容に基づいて二次的著作物をつくることは許されません。

許諾プログラムをネットワークを通して別のコンピュータに伝送することも許されません。

お客様が、このソフトウェアご使用条件、許諾プログラムの複製物、及び付属するすべての印刷物を譲渡し、一切の複製物を保持せず、かつ譲渡人が本使用条件の条項に同意した場合に限り、本使用条件に基づくお客様の権利を第三者に譲渡できます。

3. 終了

本使用条件はお客様が許諾プログラムをお受け取りになった日に発効します。本使用条件による使用許諾は、お客様が著作権法または本使用条件の条項の1つにでも違反されたときは、弊社からの終了通知がなくても自動的に終了するものとします。その場合には、ただちに許諾プログラムとその複製をすべて廃棄しなければなりません。

4. 製品の保証

弊社は、許諾プログラムが正常な使用状態でマニュアル通りの作動をしない場合は、唯一の保証責任として無償で同種の良品と交換させていただきます。

5. 責任制限

弊社は、許諾プログラムの使用、またはそれを使用できなかったことにより生じた派生的、付随的または間接的損害(データの破損、営業上の利益の損失、業務の中断、営業情報の損失などによる損害を含む)については、たとえそのような損害の発生や第三者からの賠償請求の可能性があることについて予め知らされた場合でも、一切責任を負いません。

6. 一般事項

本契約は、日本法の適用を受け、日本法に基づいて解釈されるものとします。